



なぞって練習

人の恨めしさも、自分の  
悲しさも、体面の保  
たれぬきまり悪さも、  
できただけ思ったとは  
見せまいとするふうで、  
自分自身は貴族の子ら  
しく、娘らしくて、  
ひどい近所の会話の内  
容もわからぬようであ  
るのが、恥じ入られた  
りするよりも感じがよ  
かった。ごぼごぼと雷以  
上の恐い音をよせせる唐  
白なども、すぐ寝床  
のそばで鳴るように聞  
こえた。

■参考

※恐い【こい】

※唐白【かびら】

(青空文庫のフリガナより)